

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170300174		
法人名	有限会社 お元気村		
事業所名	グループホーム お元気ハウス		
所在地	佐賀県鳥栖市宿町門戸口1399番地1		
自己評価作成日	平成26年10月25日	評価結果市町村受理日	平成27年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成26年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者さんが役割を持ち、笑顔で過ごして頂ける様、日々の生活と健康管理に気掛けサポートしている。水分量の確保・脱水予防には力を入れておりチェック表を活用しながら24時間を通し水分量が確保に努めてる。ご家族と交流を多く図りながら、共に利用者さんを支える体勢作りに努め独自の家族会も運営して頂き協働に努めている。職員も施設内外の勉強会に参加したり、常にレベルアップが図れる様努力を重ね、医療従事者と連携を重ね日々のケア、ターミナルと最後迄支えさける様支援させて頂いている。地域とも慰問の実施等交流の場を作り、利用者を取り巻く全ての者が支えあえる環境の下、ケアの実践に尽力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市の中心部の住宅地に位置し、近隣には、学校や市役所や商店などがある。隣には小規模多機能型施設やデイサービスや託児所があり、相互協力や交流がなされている。訪問診療の専門医が24時間協力体制により、終末期のターミナルケアや重度化にも対応されている。ボランティアを招いたり、入居者が地域の行事へ参加するなど地域交流も多くみられている。また、家族で運営されている家族会があり、事業所の行事や運営に協力や提案がなされている。家族や地域、医療と関係を築き、入居者のより良い支援に取り組んでいるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
	東館	西館			東館	西館	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(東館)	自己評価(西館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関先や休憩室等に掲げて、常に意識付けが出来る様心がけている。又、理念にある利用者本位を常に心がけ、実践出来る様皆で協力し支援に努めている。	各ユニットごとに理念を掲示しており誰でも、いつでも見られる様な工夫がなされている。又、管理者はその理念を実践・達成出来る様に必要に応じて指導に努めている。	玄関先やスタッフ休憩室に掲示し常に確認できるようにされている。スタッフ会議等においても理念をもとに話し合いがなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に広報を配布し、事業所の様子や活動を知って頂いたり夏祭りや餅つきなど行事の際には地域の皆さんにお知らせし、参加して頂く事で交流を図っている	地域活動の参加、散歩の際、利用者さんと一緒に挨拶や会話をもち、関係性が出来る様に努めている。離施設時、区長さんや近所の方と連絡を取り合える様に努めている。	地域の高校や、幼稚園との交流、地域の季節行事への参加など、積極的に地域と関わる機会を作られ、交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの取得に努め、認知症に関しての相談等で立ち寄られた際にはアドバイスや助言が行えるよう努めている。	定期的に広報を配布し、認知症の方の暮らしぶりや認知症についての理解が深められ、GHとはどんな所なのか広報の中で紹介し理解して頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員やご家族、地域の民生委員や近隣住民、介護保険課からも出席して頂き事故報告や勉強会の内容、利用者の暮らしぶり等を報告し、意見を交わしている。	2ヶ月に1度、会議を開催しており、そこで出た意見は各部署や全体の会議などで報告され、皆で共有しサービス向上のための話し合いと実践が随時なされている。	家族の会報などを用いて、家族の意見要望を議題にするなど、積極的に行われている。地域、行政、家族の参加があり提案なども互いに行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホーム内での事故報告際には、その都度出向き指導や助言を頂いている。又、当施設内での勉強会にて出前講座を開催して頂いている	市町村より運営推進委員会への参加と連絡を取り合いながら、相談したり、助言を頂く中でより良い関係性を深められる様に努めている。	行政主催の研修参加や、報告、相談なども随時行われ、連携を図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や会議の中で身体拘束に関する知識を皆で共有し、身体のみならず、言葉での精神的な拘束を行っていないかについても皆で知識を深めたり討論し合える様努めている。	身体拘束に関しての勉強会を定期的に実施したり、会議の議題に掲げる事で職員全員が周知出来る様に努めている。頻回に外へ出られる利用者さんについても施錠せず、センサーの設置で直ぐに付き添えるように対応に努めている	身体拘束はなく、勉強会を定期的に開催し、スタッフの意識を向上に努められている。また、スタッフの意見、評価等を行いながら、身体拘束をしないケアの実践に活かされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や会議の中で自分達のケアが身体的にも精神的にも虐待にあたっていないか、話し合える機会を作っている。又ケアの実践中にも、お互いが言い合えるよう努めている。	言葉かけや対応が虐待となっていないか、皆が考え振り返りが出来る様に勉強会の内容に定期的に組み込んだり、会議やケアの中で、注意し合える環境が作れる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(東館)	自己評価(西館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用されている方がおり、制度の内容に関しては以前より勉強会で学ぶ機会があり、後見人とも情報の共有に努めながら、協働している。	定期的に勉強会にて権利擁護に関する内容を掲げられており学ぶ機会を設けている。現在利用されている方はいないが機会があれば活用していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	何か不安や疑問をご家族が感じられている際には随時説明を行っている。又規約改定時にも家族会の折や面会時に、納得のいくまで説明し理解を仰いでいる。	契約前に、ご家族やご本人に、実際にお越し頂き目見て頂きながら説明を行うよう努めている。毎月の家族会の際に質疑を仰いだり、何か改定等ある際には説明に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃のケアの中でご家族や利用者さんの意見、要望を引き出せるように努め、ケアプランに活かしたり各部署や全体の会議の中で情報の共有と話し合いの出来る場を設けている。	家族会議が月1回開かれ、些細な事でも意見を管理者に伝えて頂き、運営推進会議でも反映出来る様に努めている。安心相談員の訪問にて利用者の悩み事を聞き取って頂けるよう努めている。	家族で組織された家族会議が月1回程度行われている。家族代表により運営推進会議等において議題にあげられるなど、積極的な意見の反映が行われている。また、日頃から、意見を言ってもらえるような関係作りを行い、出された意見を下に、業務改善に努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より管理者や代表者は職員によく声を掛けており、話を聞いてくれたり、助言や一緒に対策を考える等で皆が気持ちよくサービスの向上に向けて動ける様に努めている。	日ごろから些細な事でも相談し合える様な雰囲気作りに努め、各部署や全体の会議において、職員の思いや悩みなどを聞き取り、意見交換しながら、解決策を検討出来る様に努めている。	日頃より職員間の交流を大切にされ、何でも話せる関係作りを意識されている。各種の会議でも意見、提案などを聞きだし運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の為のフォロー等に努めやりがいをもち働けるような環境を整えられている。又、労いの言葉をかけてくれたり、個々の力量に合わせた業務の依頼などで向上心と責任感を持てる様努めている。	勤務希望や職員配置などを考慮し、急な勤務変更にも対応出来る様努めている。又個々の悩みや思いをその都度聞ける様に配慮し、職員間の良い関係作りに努め、就業意欲が持てる様気がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修会にも勤務時間内で受けられる様に配慮している。又資格習得に対しての情報や促しを行い、向上心を持って就業出来る様に努めている。	看護や介護の実習生を受け入れており、指導や関わりの中で各職員のケアの振り返りが出来、ケアの向上に繋げている。施設内において、定期的に勉強会が開かれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内外の研修会や交流会に参加できる機会を設けられ同業者との交流や新たな知識や情報を持ち帰り、サービスの向上に繋げられる様努めている。	研修の機会や他施設での勉強会の参加、又行事や利用者をおえた他施設への訪問などを通し、同業者との情報共有や意見交換などが出来る機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価(東館)	自己評価(西館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時から、関わりを多く持ち、言動や行動、反応などから、御本人の想いや要望に添える様に努め、不安なく安心して過ごせる様に配慮している。	限られた情報から、心身の状況を理解予測出来るように努め、出来る限り多くの関わりを持ち、顔見知りになり、その中で得た情報を職員が共有し、支援に出来る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談の段階よりじっくり話し合える様な時間を作り、ご家族が抱えられている思いを引き出せる様努めている。些細な事でも伺う姿勢にある事をお伝えし信頼関係の構築に繋げている。	入所前からご家族と管理者で十分に話し合う機会を設け、その中で不安や要望の把握に努め、職員にも伝達情報の共有に努めた中で、より思いに添えたサービスが提供できる様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	先に得た情報やご家族・ご本人との話の中から暫定のケアプランを作成しサービスの実践を行っている。その中で得た新たな情報も持ち寄り、1週間後のカンファレンスの実施に結び付けている。	入所前より可能な限り情報を得られるよう働きかけを行わずには環境に慣れたり、ご本人の思いを最大優先出来る様、情報シートも活用しながらケアを進めている。		
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その時々々の感情を大切にし、家事などのお手伝いを通し役割を持って頂いたり、利用者・職員が支えあいながら生活を送る中で持ちつ・持たれつの関係性がうまれている。	出来る事をして頂く事で役割を持って頂いている。人生の先輩として日々の生活の中から様々な事を教わり学ぶ機会も多く、一緒に過ごす時間の中で共感し合える様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員の支援への思いや悩みを包み隠さず相談しながら、助言ヒントを得たり機会があれば介助にも参加して頂き、本人さんを一緒に支える関係づくりに努めている。	何よりもご家族の存在の大切さを十分にご説明させて頂き、出来る限りの協力も頂きながら、共にご本人さんを支えていけるように取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人さんが使用していた物を自由に居室に置いて頂いたり、来訪者が来られても良い様にゆっくりと過ごせる雰囲気作り、いつでも来て頂けるような環境作りを心掛けている。	馴染みの方の来訪はいつでも来て頂けるようにしており、体調やご家族の協力状況により、自由に外出出来る様にも体制を整えている。気候が良い時期は近隣の散歩に出かけている。	馴染みの人や場所の事を話題にし、その場所へ出向かれている。知人や友人の面会も積極的に受け入れ、関係継続に向けての支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時々々の関係性を把握し、席の配置を行っている。レク活動や作業・会話、体操等、用途に合わせながら柔軟に席の配置を変更したり思い思いに過ごせる様配慮に努めている。	関係性を見ながら席の配置の工夫や関わり場面作り、良好な関係が保てるような配慮に努めている。気の合う方と居る事で安心されたり、話し相手になって落ち着かれる状況がある。		

自己	外部	項目	自己評価(東館)	自己評価(西館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退所となった場合にも御家族に連絡し状況を伺ったり相談やフォローが出来る様に努めている。 又、御家族・OBの御家族、職員で年1回の交流食事会を開催している。	年賀状や暑中見舞い、行事の案内状を送付するなどいつでも来て頂けるような雰囲気作りに努め出会ったご縁を大切に、関係性を高められる様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人さん、支える様々な方々より情報を得る努力に努め、ケアプランの立案に意見を反映し、居心地良く安心して過ごす事が出来る様、本人さん本位のケアが行えるよう努めている。	思いを沢山の関わりや日頃からの行動・言動、反応など様々な面から汲み取る様に努め、伝えられない方に対しては特に配慮出来る様に家族と相談するなど支援させて頂いている。	本人との関わりを下に、普段の言動や表情の変化など様々な角度から、本人の思いや意向をくみ取り、家族と相談しながら思いや意向の把握に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に得た基本情報を個人ファイルに備え付け、目を通せるようにしている。会話の中で得た事や、ご家族との会話の中で得た情報は記録に残す等で共有出来る様努めている	本人さんやご家族に生活歴やご本人さんの好み等について十分に聞き取りを行い、情報シートにも記述をお願いしている。その後もご本人さんに関する事はこまめに聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを細かにを行い、職員全員が情報の共有しケアの実践に努めている。その中でその日の体調や心理状況を見極め、メリハリのある生活が送れる様に支援を行っている。	些細な変化や気になる事は、申し送りを行い、状況把握に努め、時には看護師や訪問医師より助言も頂きながら現状にあったケアが行えるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議に職員・ご家族・本人・主治医や看護師・ケアマネと意見や情報を共有し出席できない方には事前に意見を聴取しチーム全員で介護計画立案出来る様にしている。	意見・情報を持ち寄り、カンファレンスを実施し利用者さんの状況に合った介護計画を作成・実践に繋げている。又利用者さんの状況に合わせて、定期的にケアプランの見直しを行っている。	スタッフが入居者一人ひとりの気づきを持ち寄り、プラン作成につなげられている。他関係者の意見も反映され、モニタリング等の評価も行われ、プランの見直しがなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その時々の様子や状況等を皆でこまめに記録を記述する時間を作っている。内容はケアプランに沿いながらなるべく詳しく記入し、口頭でも申し送りを行い情報の共有に努めている。	スタッフ全員が気づき等を記入する様に努めており、申し送りも十分に行い良いと思われる情報については、担当者がケア見直しの際に、実践に繋がれる様に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じて、ご家族・スタッフ・管理者・訪問医師などで話し合いを行いながらその時に一番ベストな対応策を模索し取り組めるように努めている。	心身の状態・状況の変化に伴い、本人やご家族の思いに最大限答えられる様にとの事業所の方針があり、それに沿いながらケアの実践に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(東館)	自己評価(西館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の高校への慰問やボランティアによる演奏会・お話し会、踊り等利用者の方が生活を楽しめるような機会を出来る限り多く設けられる様努めている。	地域からのボランティアによる慰問をはじめ、介護あんしん相談員や民生委員、区長さんと協働し地域の中で安全で安心できる生活が送れる様支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と密に連絡を取り合い医療面の充実を図っている。又ご家族の希望があれば皮膚科等の受診も可能であり他医療機関とも連携を図り情報の共有に努めている。	かかりつけ医の往診があり、いつでも利用者さんの事について相談出来る体勢が整っている。又整形外科・歯科等とも連携をとり往診に來てもらえる体制にある。	かかりつけ医の往診などで、本人の希望に沿った受診の支援が行われている。他科受診の付添、連携も行われ、適切な医療が受けられる支援がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の常駐び訪問看護師への状況の報告や相談等がこまめに出来る様な体制が整っている。又、24時間体制で協働出来ておりいつでも適切な看護が送れる様な体制である。	日常的に看護師と連絡・報告・相談が出来る体勢が整っており観察点やケアのポイントなど助言、指導を得ながら利用者さんを共に支えられる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の生活状況等の提供を行い入院されてもなるだけ普段と変わらない生活を送れる様に、情報交換やこまめな訪問、かかりつけ医と病院との連携、情報共有に努めている。	関係協力機関(病院)との連携が保たれており入院時・入院中、状況に応じて入院後等の相互の情報共有に努めながらご本人の状況に細やかに応じて治療が行えるよう配慮している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時はもちろんの事、入所後も状況に応じながら様々なケースを想定しかかりつけ医も交え、ご家族の意向を確認しながら皆が同じ方向性で最後まで支援出来る様に話し合いの場を持っている。	御本人の状態に応じ、一番ベストな支援の方法が実施出来る様、入所時はもちろんの事、体調変化に応じて随時、カンファレンスや話し合いの時間を設け情報を共有し支えられる様に努めている。	入居時や本人の状態変化時には、かかりつけ医も同席して、本人や家族へ「看取り」の方針の説明と確認を行い、本人や家族の希望に沿ったケアが提供できるよう取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月会議時にその時起きた事故について話し合ったり、勉強会においても急変時の対応法や応急救護について定期的に内容に揚げいざという時に実践が行えるよう努めている。	定期的に勉強会の中で急変時の対応について職員全体が学べるよう機会を設けており、利用者個々の注意点においても日々、看護師より指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災システム会社や消防署と連携をとり、6月は日中、11月は夜間の避難訓練を実践している。勉強会の内容にも災害について知識が身につけられる様取り組んでいる。	年に2回避難訓練を実施しており、他部署と連携をとりながら日中・夜間の時間帯で実践に努めている。近隣住民にいざという時お手伝いをして頂ける様協力依頼はしているが訓練参加はない。	消防署との連携を図り、避難訓練が実施されている。普段より災害時に必要な物を避難用袋に入れて準備するなど災害に対する意識は高い。しかし、地域の方々へ訓練の参加を呼びかけるが参加までには至っていない。	地域の方が訓練の参加や見守りに来てもらえるよう、呼びかけ方法や開催日時・内容を工夫をするなど、今後も取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価(東館)	自己評価(西館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への対応や言葉かけに対して、その都度気を付けてはいるが、毎月の会議の中で議題に掲げ、振り返りを行いながら、常に御一人御一人の人権を大切に支援出来る様に努めている。	勉強会の中でも認知症について、尊厳について等を定期的に取り上げており現状に満足する事無く常に自分達の姿を振り返りながら対応に活かせるように努めている。	声掛けの方法、入居者に対する態度など、その都度気づいたときに指導が行われている。排泄への対応なども意識され、尊重とプライバシーの確保がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人さんが選択可能な事は尋ねながら、自己決定できるように努めている。不穏時にでもご本人の思いを聞き取れる様努め、少しでも意に添える様努めている	意思決定が不明であったり、出来ない方に対しては、職員個人の判断ではなく他職員や御家族の情報と合わせて、少しでも本人さん本位での支援が出来る様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理解力や出来る力を見極めながら一日を楽しく心地よく生活できるように意向を把握しながら本人さんのペースを大切にし、生活のリズムが作れる様に支援している。	その日の状態やその時の要望に合わせて、出来る限り柔軟な支援が出来る様、申し送りを行い利用者の行動把握に努めながら意に沿える支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を自身で選んでもらったり、散髪や顔そり等もご家族や本人の要望の中で実施出来る様意向の把握に努めている。ウイッグや指輪なども意向に応じ身につけられている。	本人さんの好みやご家族の要望等に合わせて髪飾りなどを使用したり衣類も季節ごとにご家族に準備して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや食器拭き、おやつ準備等個々の力量を把握しながらお手伝いして頂いたり見学して頂く場面を作っている。	お手伝いをしてもらう事が難しい状況になってきているが、食器拭き等簡単な作業を一緒に行ったり、食べたいものを聞き取ってメニューに組み込める様努めている	本人の好みや希望をメニューに反映させている。また、近くの商店へ買い物や、食事の準備を一緒に行い、食事を楽しめるよう取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自身の力で摂取出来る様柔軟な支援に努め、食べこぼしや飲みこぼしの無い様見守り・対応に努めている。量の調整については看護師や医師と適時報告・相談している。	食事や水分量が一目で分かる様記録に残しており看護師や医師と相談しながら利用者の満足や健康が保てる様量の調整、補助食品での栄養確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの徹底、訪問歯科医師らと連携を取りながら清潔保持に努めている。又スポンジやガーゼなど、状態にあわせて器具を使用し口腔ケアの実践に努めている。	毎食後口腔ケアに努めておりご本人さんの出来る範囲で実施して頂いた後、不十分な面を支援している。又、定期的に歯科医師の往診・指導・助言を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価(東館)	自己評価(西館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いながらご本人の排泄パターンの把握に努め、可能な限りトイレでの支援とパット使用の枚数軽減に向けて日々ケアに取り組んでいる。	本人の排泄のリズムを把握し出来る限りトイレでの排泄支援が行えるよう、時には2名介助も要しながらトイレ誘導を基本とした支援に努めている。	排泄チェック表を用いて、リズムを把握し、可能な限りトイレへ誘導され、排泄の自立を目指されている。実際にトイレでの排泄が可能となるケースが多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を飲んで頂いたり十分な水分補給や腹部状態の観察とマッサージ、運動量の保持等に努めている。便秘が様々な不調をきたす方もいるので早期解消に努めている	個々の排便リズムに合わせて必要時には緩下剤の処方もして頂きながら、予防に努めている。牛製品や食物繊維食材の使用や水分補給に努め腹部の状態観察も気掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日以外でも希望があれば入って頂いたり、入浴の拒否があられる方には、必要に応じ毎日声掛けし、入れるタイミング作りに努めている。	体調や皮膚の状態に考慮し、入浴を行えるよう努めているが入浴が心地よい時間となる様に個々のペースに合わせてながらの支援に努めている。	本人の体調に合わせた入浴方法で対応されている。入浴時間の変更や入浴回数が増減など、個々の希望に合わせた対応がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の入眠状況や体調を申し送り、状態によっては休息できる時間を設けたり、夜間気持ちよく眠れるような働きかけに努め、睡眠のリズムを崩さない様努めている。	夜間はご本人の性格や習慣を考慮した上で安眠出来る様な支援の工夫に努め、夜間熟睡出来ていたかについては申し送りを確実にし、昼間の睡眠調整に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服一覧表を看護師により作成し、内服の種類や効能についても記載されている。又体調や状況にあわせて臨時で内服薬が処方された場合でも確実な申し送り書き出しがなされている。	内服リストを作成されており、内服と一緒に掲げられている。新しく内服が出た際にも目的や副作用についての申し送りがあり介護者は症状の把握と連絡に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、役割作りや好きな事・集中できる活動の模索に努め一日何事もなく終わる事が無いように職員と一緒に楽しみながら活動出来る様な環境作りに努めている。	持っている力を最大限引き出せるように工夫を行い、作業・レク活動の参加や楽しい雰囲気生活が送れる様努めている。重度化されて来られている方への配慮も忘れない様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と近隣に散歩へ出かけたり、体調によって長時間の外出は厳しい方も多いが、可能な限り行事の中でホテル見学やお花見等、外出の機会作りに努めている	日中は施錠せずに自由に外へ出られる環境づくりに努めており近隣迄散歩に出掛けられる様付き添っている。行事では他部署とも連携し演奏会の見学の機会も作っている。	行事や庭での活動、散歩や買い物、家族との外出など、希望や体調に合わせて外出の支援に取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価(東館)	自己評価(西館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい利用者さんが多いが希望があれば金銭の利用や所持等も出来る機会作りに努めている。	本人さんやご家族の要望に応じて金銭の所持や使用が出来る様に努めているが管理が難しくなれば相談の下、こちらで管理する事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状やお手紙が届いた際にはご本人に伝えたり、代読し、ご家族にもその旨をお伝えするようにしている。又ご家族を介して親戚などにお電話でお話されるケースもある。	いつでも希望があれば手紙やお電話のやり取りが行えるよう支援に努めている。大切な関係性が途切れてしまわない様ご家族にも報告しながら支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにホーム内を飾りつけしたり、台所や洗濯場から聞こえる生活音のボリュームにも配慮している。又トイレや排せつ物の匂いがこもらない様換気にも気掛け心地よい空間づくりに配慮している。	間接照明を取り入れて柔らかい日差しとの兼ね合いをみながら明るさの調節を行ったり席や休息の取れる場所も季節や日差しの状況に合わせて配置換えしている。季節にあわせたホーム内の飾りつけにも配慮し季節感を演出している。	季節にあわせた飾り付けにより、普段よりホールで過ごす方々にも季節感が味わえるようにされている。トイレの誘導線など混乱を招かない空間作りの工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人掛けソファーや臥床できるスペース作りに気掛けたり、逆に気の合う者同士で過ごせる席の工夫など体調やその時の心理状況に合わせて、過ごせる空間づくりに努めている。	利用者さん同士の関係性やその時の気分に合わせて席の工夫を行っている。一人掛けソファー、畳など、ゆったりと心地よく過ごせる環境作りにも努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やご家族との写真、使い慣れたタンスなど思い思いの品を居室には持ち寄って頂き、安心できるスペース作りに気掛けている。	入居時にご本人の馴染みの品を持って頂いてきており安心できる空間づくりにご家族の協力の下努めている。	家族写真や思い出の品、季節感のある飾り付けにより、本人がゆったりと落ち着いて過ごせる居室作りに取り組まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭的な雰囲気作りに配慮しつつ、トイレや居室の前には手書きの表示物を設置したり、廊下や居室、浴室など高さに配慮しながら手すりを設置し安全面に考慮している。	段差を作らずにバリアフリーでの設計となっている。通り道に不要な物を置かない様配慮し、トイレが分かる様に掲示したり、自己の部屋と分かる様に表札をかけている。		